学校週五日制と子どもの地域活動

馬居　政幸

一　一年を経た学校週五日制

どうやら月一回土曜休日の学校週五日制は、順調に定着しているようである。受け皿問題を代表に、昨年の九月十二日を前後してあれほど騒がれた土曜休日日のあり方も、一年経ってみれば〝案ずるよりは生むが易し〟の典型であったようだ。もちろんその影では、文部省をはじめ全国の学校や教育委員会あるいは社会教育関係者や地域団体の方たちの努力があったと考える。また、学校週五日制といっても当面は月一回土曜日が休みになるだけ。月二回に向けては、文部省指定の全国一一地域と九四協力校で研究中である。全国一斉に月二回の学校週五日制になる時期は、その研究成果をまって、ということで未定である。

なぜこれほど文部省は慎重なのか。加えてなぜ週休二日ではなく学校週五日制なのか。本年十月に発行された文部省の『小学校教育課程一般指導資料　新しい学力観に立つ教育課程の創造と展開』には、学校週五日制の目的が「学校教育と家庭及び地域社会の教育のそれぞれの在り方とその相互のかかわりを根本的に見直すこと」にあるとして、次のようにその理由と方向が述べられている。

「学校教育の現状は、知識の伝達に偏っている傾向がみられ本来の教育力の低下が指摘されている。一方、家庭や地域社会の現状も、社会の変化に伴って教育力が低下し、学校教育へ過度に依存する傾向にあるとの指摘がある。また、学校教育と家庭や地域社会の教育とが乖離している状況にあるとの指摘がある。／このような現状を改め、学校教育と家庭や地域社会の教育を一体的にとらえてそれぞれの教育力を高めることによってこそ、学校週五日制の導入が求めている子供の望ましい人間形成が可能になると考える。すなわち、学校、家庭及び地域社会は、同じ屋根（ドーム）の下にあるものとしてとらえ、それぞれの教育の在り方と相互のかかわり方を見直す必要があるということである。」

このように学校週五日制は単に学校が週五日になって休みが一日増えることではない。子どもの教えと育ちの世界をトータルに見直し再構築すること、とりわけ学校以外の学びの場を豊かにすることを通じ子どもの育ちの世界を多様にすること、これが週休二日制ではなく学校週五日制とする本義と考える。そしてこれが本稿の主題である子どもの地域活動を論議の対象とする理由でもある。

二　遊びの価値と地域活動の意義

この一年間、全国各地で土曜休日日を中心にさまざまな地域活動が実施され多くの子どもたちが参加した。その様子を知る上で本年十一月号の「初等教育資料」に掲載された八種の実践事例は参考になる。他方同誌には、次表が示すように、文部省の「6月2日における幼児・児童・生徒の学校外活動実態調査」の結果として、幼稚園生と小学生は「近所での遊びや運動、散歩」、中学生以上では「ゆっくり休養」が最も多いことが報告されている。

この結果をどう評価するか。さまざまな活動が行われたもののいまだ日本の子ども全体に及ぶほどではなく、よりいっそう努力が必要、と見るべきか。このような意見に、私は半ば肯定、半ば否定である。一年を経たとはいえ学校も家庭もそう急には変われない。そのため、完全五日制への移行を目標に、より多くの子どもが参加可能な地域を舞台とする多様な活動が準備される必要がある。これが肯定の理由である。だがいかに地域活動が盛んになったとしても、それへの参加が強制になれば学校週五日制の本義から外れるはず。子どもにとって地域活動の意義は、自分が生活する地域社会で自由に活動すること自体にあると考えるからである。その意味で特別に大人が用意した地域活動への参加はその選択肢の一つ。「近所での遊びや運動、散歩」もまた文字どおり地域での活動の一つである。加えて、中・高生の発達段階と彼ら彼女らが置かれた現実を考えるとき、「ゆっくり休養」し自分の時間を持つことも非常に重要な選択肢の一つではないか。これが否定の理由である。

このような視点から、子どもの地域活動のあり方を考える上でのキーワードとして、私は「遊びの価値」と「自立（律）」を提起したい。すなわち、「よく遊び、よく学べ」という諺が示すように、子どもの成長にとって遊びと学びは車の両輪のようなものである。だが学校も家庭も「よく学べ」の方を優先してこなかったか。たとえ遊びを奨励しても、勉強に差し障りのない限り、という但し書きがついていないか。学校週五日制が求めるのは、勉強疲れを癒（い

表　校種・学年別に多かった活動項目について

校種・学年	多かった活動項目
幼稚園	午前　①「近所での遊びや運動、散歩」(28.4%)、②「テレビ等の視聴」(12.0%)、③「ゆっくり休養」(8.9%) 午後　①「近所での遊びや運動、散歩」(33.0%)、②「買物、外食」(11.5%)、③「家族で団らん」(6.8%)
小学校2年生	午前　①「近所での遊びや運動、散歩」(18.3%)、②「テレビゲーム等で遊ぶ」(10.6%)、③「テレビ等の視聴」(8.2%) 午後　①「近所での遊びや運動、散歩」(25.2%)、②「習い事」(10.2%)、③「テレビゲーム等で遊ぶ」(9.9%)
小学校5年生	午前　①「近所での遊びや運動、散歩」(16.2%)、②「テレビゲーム等で遊ぶ」(11.2%)、③「ゆっくり休養」(9.5%) 午後　①「近所での遊びや運動、散歩」(19.2%)、②「テレビゲーム等で遊ぶ」(9.9%)、③「習い事」(9.5%) 「学習塾、予備校」　午前　1.0% 午後　2.8%
中学校2年生	午前　①「ゆっくり休養」(25.4%)、②「部活動」(13.0%)、③「テレビ等の視聴」(9.7%) 午後　①「部活動」(14.5%)、②「近所での遊びや運動、散歩」(13.2%)、③「ゆっくり休養」(11.6%) 「学習塾、予備校」　午前　0.6% 午後　2.6%
高校2年生	午前　①「ゆっくり休養」(37.2%)、②「部活動」(16.4%)、③「テレビ等の視聴」(8.4%) 午後　①「ゆっくり休養」(16.5%)、②「テレビ等の視聴」(15.2%)、③「家で勉強」(10.1%) 「学習塾、予備校」　午前　0.5% 午後　1.4%
特殊教育諸学校	午前　①「ゆっくり休養」(23.4%)、②「テレビ等の視聴」(14.7%)、③「近所での遊びや運動、散歩」(8.3%) 午後　①「ゆっくり休養」(16.2%)、②「テレビ等の視聴」(15.0%)、③「近所での遊びや運動、散歩」(11.6%)

(注)本年6月12日の午前と午後に主に何をしていたかを各1つ回答してもらったもの。
○付き数字は、26項目のうち活動割合の多い項目の順位である。また、(　)内の数字は、各活動をした者が各校種・学年別の人数に占める割合を示す。

や)すための時間の増加ではない。勉強とは異なる子どもの育ちの世界の創造であり、その中心に「よく遊び」があると考える。理由は次の三つの価値である。

一つは総合性の価値。子どもは遊びの中で自分の持っている力のすべてを発揮していないか。子どもにとって遊びはさまざまな機会に教えられ身につけた多様な知識や技能を総合して実践的に試す場。学校の授業を含め、それまで学び取った知識を自分の生活の中に知恵として生かすための練習の場が遊びである。

二つは創造力の価値。子どもは遊びに必要なものであればなんとか工夫して手に入れ、遊びを妨げる問題には必死に努力して解決しようとするはず。遊びは子どもが新たな力を自ら生み出す場。教科書や教師からでは学べない、一人ひとりの個性や能力に応じた子ども独自の文化を創造する場が遊びである。

三つは楽しさ(自発性)の価値。刻苦勉励や勤勉という言葉が示唆するように、学校の勉強は文字どおり強いて勉める世界。だが遊びは逆、自ら進んで行う世界である。その理由は楽しいからである。自発性は楽しさとセットである。この楽しさに支えられた総合力と創造性力こそ、子どもが自立(律)するための基礎・基本である。自らを律して自ら立つための力はやはり自ら学び取るしかない。

すなわち、子どもにとっての最高の地域活動とは、仲間と一緒に無我夢中で遊ぶことである。ただし、このような遊びの世界を現代の子どもが創造できるためには、残念ながら多くの人たちの助けが必要である。何よりも子どもが安心して元気いっぱいに遊べる空間と仲間と先輩と後輩が必要である。これらが可能となる場と機会を用意するのが私たち大人も参加しての地域活動の意義である。すなわち、地域や家庭という日常の場で、学校では学びえないさまざまな生活知を、あるいは友達や先輩や後輩と夢中で遊ぶ過程で多種多様な人とともに生きる知恵を子どもが獲得できるための条件づくり、これが地域活動の意義である。

ではこのような意義を具体化する上でなにが課題か。四点指摘しておきたい。

三　子どもの地域活動を支え援(たす)けるために

まず第一に子どもたち自身によるネットワークづくりのための機会を用意すること。

学校週五日制の意義は子どもたちが互いに学び合い育ち合う世界を創造すること。主役は子どもたち、大人は見守り援助する存在、直接指導は可能な限り避けるべきである。学校での子どもは先生の指導のもとで児童・生徒の役割を演じなければならない。だが児童・生徒としての役割

と一人の社会人として生きるために必要な習慣や技能は異なる。社会教育も子ども会もスポーツクラブも、学校教育をモデルにした大人の指導に基づく限り問題は同じ。重要なのは、学校の教室の人間関係を越えて多様な子どもの結びつき（ネットワーク）が自主的に生まれるかどうかである。

そのための機会を準備する第一歩として、子どもが利用可能な地域の活動の場を見直してほしい。たとえば地域の社会教育施設や文化施設を子どもの目の高さから改善する必要がある。必ずしも子どもが利用することを前提につくられていないからである。子ども自身も施設使用のマナーを知らない場合が多い。他の利用者からの苦情もありうる。これらを想定し、開閉時間の調整や料金の割引き（無料）も含め、施設改良や使用規定の見直しが必要。子ども対象の施設使用講習会など、地域の公的施設利用のルールを学ぶ機会を準備することも重要な地域活動である。その際、主催を年長の中・高校生に任せ、それを通じてボランティアを育てる機会にすることも重要ではないか。また、実際の地域活動においては、子ども自身が運営主体になることに加えて、幼・小・中・高と学校段階を越えた集団活動と、その活動を契機に相互に学び合い育ち合う関係が日常化するようになることが、最終目的であることを強調しておきたい。

二つ目の課題は学校の授業実践との連携。

今学校では「新しい学力観」に基づきさまざまな改革が試みられている。その一つが先に述べた遊びの価値を授業に積極的に取り入れること。子どもが遊びの世界を豊かに創造できるための基盤を培うためである。その代表が生活科。生活科の授業の中心は遊びである。教える人も教師のみではない。授業の場も子どもの生活の場全体に広がる。このような授業実践により見いだされ創造される人と場が、子どもの遊びの世界を豊かにする基盤になるとの考えからである。当然、地域や家庭の人たちの協力がなければ実現できない実践である。

教師のみでなく、子どもと親と地域の人たちが〝共に創造する学校〟、これが五日制の最も重要な課題である。学校週五日制に伴う家庭と地域社会の課題は、まず休日二日間ではなく学校週五日の創造にこそ問うべきである。

三つ目の課題は、上記二つの課題の前提として、子どもと接するすべての大人は、子どもが〝学び育つ〟ことを〝支え援ける〟教師であることを自覚することである。ただしそれは子どもの保護や管理あるいは大人の都合にあわせた健全育成のためではない。子どもたちが互いに自立した一人の人間として〝教え学び育ち合う〟ことを見守り援

助する多種多様な人たちのネットワークを広げるためである。

そのためには、まず家庭と家庭の間に改めて地域を創造すること。子どもに向かう前に親自身が地域の人になるべきである。それも単にわが子の親の顔ではなく、わが子を育ててくれる仲間や先輩や後輩にとっての地域のおじさんやおばさんの顔になって、子どもたちの生きる場の創造の担い手になってほしい。

親のなすべきことは、子どもを無菌状態に置くことではなく、わが子が生活する場で出会う多種多様な人たちとの間（あいだ）に〝自立（律）を支援するコミュニケーションのネットワーク〟を創ること。これが現代の地域とその教育力の基盤である。

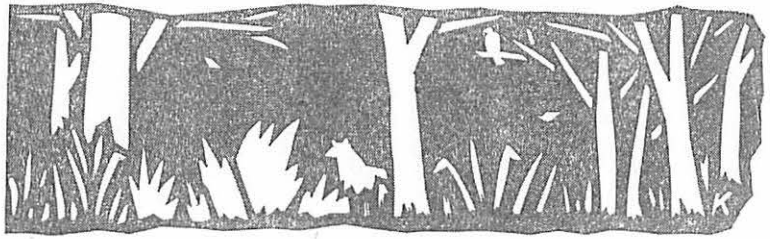
今日の地域の教育力は現にある地域や地域組織自体ではなく、〝家庭と家庭の間（あいだ）〟にあるさまざまな〝ヒト、モノ、コト〟から、わが子が〝自ら学びとる〟過程にのみ生じる。そのネットワーク創りに踏み出すために家庭と家庭が知り合う場（知縁）を用意すること、これが地域活動の役割と考える。

先の文部省の『指導資料』には、引用文に続いてこれからの学校教育は「自ら学ぶ意欲と主体的に判断し行動できる資質や能力を基礎・基本の中核」において「子供たちが自らの力によってそれを獲得し、自己実現に役立つものとして身に付けるよう学習指導を工夫することが大切」であるとして、家庭や地域社会との関係を次のように位置づける。

「このように身に付けられた資質や能力は、子供たちが自由に使えるように確保された時間を生かした、家庭や地域社会における遊び、自然や社会及び生活などの諸体験を通して、子供一人一人のよさや可能性を伸ばすことにより深められ、根づくものと考える。」

ここに見るように、学校は大きく変わろうとしている。次は家庭と地域社会の番。この変化を積極的に受け止め、自らもまた変わるためのネットワークを〝家庭と家庭の間（あいだ）〟にどれだけ創ることができるか。これが学校週五日制における子どもの地域活動を豊かにする最大のポイントと考える。

（静岡大学教育学部　助教授）



《子どもと家庭》目次

第三十巻・第九号（通巻二六七号）

■特集：現代の子どもと遊び文化

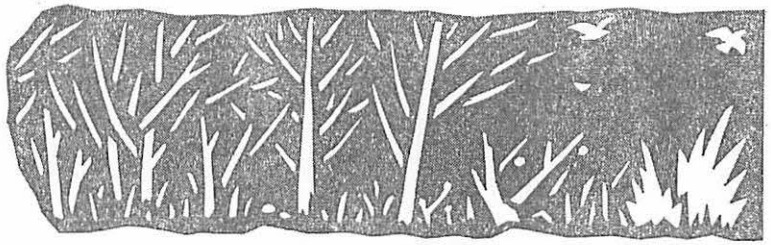
子どもの遊びを考える……山本　保……4

学校週五日制と子どもの地域活動……馬居　政幸……8

幼児とおもちゃ……永田　桂子……14

現代の子どもと読書……竹中　淑子……21

映画の魅力
——「ジュラシック・パーク」の投げかけたもの——……鴨志田　義英……25



●児童健全育成活動の実際

〈子どもによる善福寺川調査探検〉

ぼくたち川に入ったよ！
——街の川を遊び場に——……鈴木　雄司……29

〈情報・資料〉

ひとり親家族と現代の家族問題……渡辺　秀樹……35

京都市における児童虐待
——発生要因と被虐待児への影響——……衣笠　紀玖子……42

●話題をひろう〈ミニ資料・トピックス〉

わが国にも子ども人権オンブズマンが誕生……41

（表紙・カット　金子　之）